

目 次

はじめに	3
本書の構成と利用法	6
リスニングと発音の蜜月関係	8

単語編

STAGE 1	動 詞 1	9
STAGE 2	動 詞 2	13
STAGE 3	動 詞 3	17
STAGE 4	名 詞 1	21
STAGE 5	名 詞 2	25
STAGE 6	名 詞 3	29
STAGE 7	名 詞 4	33
STAGE 8	名 詞 5	37
STAGE 9	名 詞 6	41
STAGE 10	形 容 詞 1	45
STAGE 11	形 容 詞 2	49
STAGE 12	形容詞・副詞・他	53

熟語編

STAGE 13	熟 語 1	57
STAGE 14	熟 語 2	61
STAGE 15	熟 語 3	65

INDEX

単語編	69
熟語編	72

本書の構成と利用法

● 各 Stage の構成

各ステージとも次のような構成になっています。

< 単語・熟語のまとめ >

- ・ 1ステージあたり 30 の単語・熟語を取り扱います。
- ・ 単語は「品詞別」に配列し、ステージの順序は「頻度」を基本としています。
 - * 同一品詞の中ではステージ数の若い方が重要度の高い単語です。
- ・ 熟語は「頻度」を基にステージ分けしてあります。
 - * ステージ数の若い方が重要度の高い熟語です。
- ・ ステージの冒頭には「重要度」を示す星印 (★) が表示されています。

★★★★★：単語の場合、各品詞の中で最重要の単語。熟語の場合は各巻の中で最重要のもの。単熟語とも上位三分の一。

★★★★☆：単語の場合、各品詞の中で重要な単語。熟語の場合は各巻の中で重要なもの。単熟語とも中位三分の一。

★★★☆☆：単語の場合、各品詞の中で重要度、下位三分の一の単語。熟語の場合は各巻で採り上げる熟語のうち、下位三分の一の熟語。

* 単語の場合、星の表記はさらに細かく分類し、★★★★☆、★★★☆☆のように表記。

< Dictation 1, Dictation 2, Dictation 3 >

- ・ 1ステージに学習する単語・熟語を 1 回の Dictation あたり 10 の例文を取り扱います。ターゲットの単語・熟語の配列はシャッフルしてあります。
 - ・ 例文ごとにターゲットの単語・熟語が空所になっています。音声を聞いて適切な単語・熟語を空所に書き入れます。
- なお、音声はアメリカ人男性、イギリス人女性によるものです。

● 効果的な学習の進め方

1. 事前に各ステージで学習する単語・熟語の意味を確認します。派生語や補足説明にも注意して、語彙を知識を増やしてください。
2. 授業では音声を聞き取り、Dictation 1, Dictation 2, Dictation 3 の空所に適切な語を書き入れます。

以下、授業の後の復習例です

3. 完成例文を音読します。(=音読)
*最低5回
4. 完成英文を音読しながら英文をメモ用紙などに書き写します。(=音読筆写)
*最低5回
5. CDなどの音声がある場合、例文をもう一度聞きます。聞きながらCDの音声のすぐ後に声をぶつけるように音読します。(=シャドウイング)
6. 空所に正解を書き入れてある場合はそこを隠して、CDを聞き、空所に入るべき単語・熟語を書き取ります。(=ディクテーション)

「リスニング力を付けるにはどうしたらいいか」。

この命題に答えるために私たちは様々なことに取り組みます。映画を見る人、音楽を聴く人、TVの2か国語放送を聞く人、音声CD付きの教材で学ぶ人、その他さまざまに工夫を凝らし、自分で教材を作ってしまう人などきりがありません。どれも皆正解と言いたいと思います。しかし、ここではちょっと違った観点からリスニングを考えてみます。

あなたは自分の英語の発音を録音し、聞いてみたことがありますか。まだの方には是非お奨めです。一度トライしてください。私の場合は初めて自分の声を録音して聞いた時のことは強烈な印象があり今でも鮮明に覚えています。第一に「俺の声はこんな変な声じゃない」と思ったこと。第二に「俺の英語はこんなに下手なのか」と思ったことです。残念ながら、変な声も下手な発音もごまかしようのない事実でした。それからというもののモデルスピーカーと自分の発音を聞き比べながら、軌道修正を繰り返しました。その過程で自分の不得意な発音が明らかになりました。それは/l/と/r/、/b/と/v/、/s/と/th/です。「なーんだ、みんなと同じだ」。で、今度はそれぞれを個別に練習してみました。歩いているとき/th//th//th/、電車に乗っているとき/th//th//th/、お風呂に入っているとき/th//th//th/とやりました。それも上の歯と下の歯の間に舌を挟んで、その舌の先が指でつまめるほど極端に発音練習です。しばらくすると無意識に/th/の発音ができるようになりました。元々母語にない発音をしようとするのですから、そのぐらい意図的にしないと無意識にできるようにはならないのかもしれない。

少し話しが長くなってしまいましたが、不得意な発音ができるようになってきた頃には個々の音の聞き取りが正確にできるようになったことは驚きでした。そしてこれが相乗効果というものだと思いますが、何か話しをしていて聞き返されることがなくなったのもその頃です。それからというものの、苦手だと思っていた聞き取りが徐々に面白くなり、最後には得意になりました。その体験を通じ、個々の音を発音できることと、その音を聞き分けることは一体の作業であることに気づきました。

リスニング力をアップしたいと思ったら、あるいは行き詰っていたら、視点を変えて発音力を磨いてみてください。そこからリスニングの悩みは打開できると思います。

ただし、誤解を招かないように一言加えておきますが、私は決してネイティブのような発音を身に付けることを奨励しているわけではありません。持論ですが、日本人はむしろ日本人としてのアイデンティティーを確立するためにも日本人らしい発音（程度の問題もありますが）で堂々と各国の人々とコミュニケーションすることをお勧めしたいと思います。